児童生徒の意識調査

平成26年9月実施

質問：考えたり、話し合ったりして学び合う授業ではどんなことを感じていますか。

① 友達との意見を聞くことが楽しい
② 自分の意見を話すことが楽しい
③ 話し合うことが楽しい
④ 「学び合う学習」をすると、友達と仲良くなれる
⑤ 自分では考えつかないことを友達から知ることができるので勉強になる
⑥ 考え方が深まる
⑦ 自分から進んで学習できる、やる気が出る
⑧ 見えない努力に感謝
⑨ 問題を考えて、自分に学びをもたらした

【上神中学校】
【大沼中学校】

分析

・ ⑥ 自分では考えつかないを考えを友達から知ることができるので勉強になる」、「⑧ クラスの仲が良い方が、「学び合う学習」がやりやすい」と感じている児童生徒が、全体の約80%いる。
・ 小学校、中学校ともに学び合う学習で、「⑧ 友達との意見を聞くことが楽しい」、「⑨ 自分から進んで学習できる、やる気が出る」と肯定的に回答する児童生徒が、小学校から中学校にかけて減少している。
・ ⑧ 話し合うことの意義が高まるような、学習展開（課題の提示、一人学び、グループ交流、全体制学など）の工夫が必要である。

次年度に向けて（校内授業研究会や合同研修会から）

・ 単元の構成や授業の導入を工夫し、児童生徒の学習意欲を基盤にした授業を展開する。
・ 話し方や聞き方のスキルをさらに向上させ、交流する意図を明確にして、自分との違いを知り、お互いの学び合うことの楽しさを味わわせること。
・ 交流の中でも子どもたちの考えを高めていくための手立てを考えていく。
・ 評価をする際、具体的な児童の姿をより明確にしていく。
・ 自力解釈を大切にする思考の場を1単位時間の中に設定することで、自分の考えを他者と比較しながら深めていくようにする。
・ 小中連携を念頭に置いた年間指導計画を作成する。

平成27年2月13日（金）
埼玉県春日部市立上神中学校
埼玉県春日部市立大沼中学校
平成26年度の実践

1. ディベートの手法を取り入れた話し合い

(1) 道徳 主題名 勝負とは何か 資料名 「どうする？ 建？」 （出典 モラリゼーション資料と授業展開 小学校編 荒木紀之著）

(2) ねらい
希望・勇気・強い意志・向上心・思いやり・誠実など関する内容を通じて努力することの大切さや誠実であることの意味について話し合い、道徳的な思考や判断力を高める。

(3) 実践から
登場人物に感情移入し、自分ならばどうするか考える機会を設け、しっかりと考えた後、自分の立場をどう選手に納得させるかというディベート形式の話し合いは、より読むののある観点が思考性を育むことができる。

「一斉授業の話し合いではなく、自分の立場をどう選手に納得させるかというディベート形式の話し合いは、より読むののある観点を思考性を育むことができる。

「一斉授業の話し合いではなく、自分の立場をどう選手に納得させるかというディベート形式の話し合いは、より読むののある観点を思考性を育むことができる。

2. グループでの活動や話し合い

(1) 算数科 比例及び反比例

(2) ねらい
二位小数の関係にある一定の決まりがあり、文字式でそれを表すことを学ぶ。

(3) 実践から
・口算程度で習熟度に応じたヒントカードを活用し、どの程度のヒントを必要とするかを把握する。
・口算程度で習熟度に応じたヒントカードを活用し、どの程度のヒントを必要とするかを把握する。

「友達の発表の最終点で自分自身の発表を聞くという話し合いの視点を明確に示したことで、話し合いを身に付けさせることができた。」

3. 成果と課題（成果 ▲ 課題）

◎「個人の考えの確立」→「学び合い（考えの時而とより良い考えの産出）」→「個人での学習の確認と振り返り」という「学び合い」の基本形について、共通理解が得られた。その結果、授業改善に結びつけることができた。

◎他の教科も課題を明確にし、発見や指示を工夫することにより、生徒が既習事項や体験を踏まえて個別の考えを確立させることができた。

◎生徒が考えることは、よい話し合いはどういうものか、「学び合い」のイメージは、教科によって変わってくる。各教科の授業実践を積み重ねることにより、教科ごとに学び合いのイメージを具体性をもっていくことが必要である。

◎様々な場面で、生徒が話し合う機会を増やすなど、さらに「学び合い」を充実させていく必要がある。